

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 コミュニティ看護学分野	修了年度	平成 28 年度
氏名	藤寄 好洋	指導教員 (主査)	板山 稔 (風間 眞理)

論文題目	精神科病棟に勤務する看護師のストレングスモデルの認識と実践の現状 —社会的スキルおよび感情労働との関連—
------	---

本文概要	
<p>〔目的〕本研究の目的は、精神科病棟で働く看護師のストレングスモデルの認識と実践を明らかにするとともに、社会的スキル及び感情労働との関連を検証することである。</p> <p>〔方法〕都内 200 床以上の精神科病院に勤務する看護師（准看護師を含む）642 名を対象に、郵送法による質問紙調査を実施した。基本属性（10 項目）、Rapp によるストレングスモデルを参考に研究者が作成したストレングスモデルの認識と実践（15 項目）について調査するとともに、社会的スキル（Kiss18）、感情労働評価尺度を用いて調査した。分析は、基本属性と各尺度については Mann-Whitney-U 検定、Kruskal-Wallis 検定を実施し、各尺度の関連については Spearman の順位相関係数を用いて検定した。</p> <p>〔結果〕249 名の有効回答に対して分析を実施した。ストレングスモデルの質問項目では「患者との関係が第一であり不可欠であるという信念がある」が <math>3.78 \pm 0.832</math> (M<math>\pm</math>SD)、「患者のもつ強みについて考えることができる」が <math>3.71 \pm 0.827</math> (M<math>\pm</math>SD)であり、他の質問に比べ平均が高かった。しかし、「回復に向けた支援計画の目標を細かく、具体的に測定可能な行動ステップに分割することができる」が <math>3.23 \pm 0.809</math> (M<math>\pm</math>SD)、「肯定的な行動ステップを作成することができる」は <math>3.36 \pm 0.837</math> (M<math>\pm</math>SD)であるなど、ストレングスモデルの実践に関する項目は低かった。ストレングスモデルの原則と社会的スキルでは、弱い相関が認められたが (<math>r = 0.340 \sim 0.538</math>, <math>p &lt; 0.05</math>)、感情労働評価尺度とは相関関係が認められなかった (<math>r = 0.094 \sim 0.209</math>, <math>p &lt; 0.05</math>)。</p> <p>〔考察〕ストレングスモデルが実践に活用されていない背景には、これまで問題解決的アプローチによる看護実践が長く行われていた歴史が影響していることが考えられた。今後は、ストレングスモデルの認識から看護実践に展開させていく実践的教育が必要となる。ストレングスモデルと社会的スキルの関連から、看護師が対人関係を円滑に築くスキルを高め、患者との信頼関係を結ぶことが重要であると考えられた。</p> <p>〔結論〕ストレングスモデルの認識を高め実践につなげていくためには、ストレングスモデルの教育をさらに浸透させるとともに、社会的スキルを高めていく必要がある。</p> <p>キーワード：ストレングスモデル、社会的スキル、感情労働</p>	